



特集

全国自治体病院協議会 精神科特別部会 総会・研修会

Japan Municipal Hospital Association, JMHA

令和元年8月28日～30日、本院を担当施設として、山形市のホテルメトロポリタン山形を会場に全国自治体病院協議会精神科特別部会第57回総会・研修会が開催されました。

全国の自治体精神科病院や総合病院精神科の医師や看護師、コメディカルスタッフ、事務職員約280名が参加したこの総会・研修会は、「令和元年～明日の精神科医療を切り拓く～」を総合テーマに、3日間にわたり全体研修、職種別研修が行われました。

初日には、欧米と比較して採用が進んでいないクロザビンについて、特別講演Ⅰとして千葉大学大学院教授の伊豫雅臣先生から『精神科の治療法としてのクロザビン』と題した講演を頂き、引き続いて、「クロザビンと地域連携」をテーマとしたシンポジウムが行われました。

2日目には、医師部会、看護部会、コ

メディカル部会、事務部会の職種別分科会が開催され、医師部会では当院にも設置されている医療観察法病棟に関する司法精神医学について、看護部会では精神科看護の質について、コ

メディカル部会では地域生活支援につい

て、事務部会では経営改善の取組みについ

て、事例発表や討議などが行

われました。その後、特別講演Ⅱとし

て「最近の精神保健福祉の施策の動

向」、特別講演Ⅲとして「精神科臨床に

おけるスポーツの可能性」と題した講

演が行われ、特別講演Ⅲでは当院の患

者さんやスタッフで結成した精神障

がい者フットサルチーム オーロ

ヴェッタ鶴岡の話題も取り上げられ

ました。

3日目の合同シンポジウムⅡでは、今までは見過ごされることが多く、近年、社会的に広く認知されてきた発達障がいについて、「発達障害臨床の広

がり」をテーマに、学校コホート研究に基づいた子供のメンタルヘルスに関する中京大学現代社会学部教授の辻井正次先生による基調講演、シンポジストとして、福島学院大学副学長の星野仁彦先生、岡山県精神科医療センター院長の来住由樹先生による発表が行われました。

また、2日目の夜に開催された懇親会では、アトラクションとして本県出身の歌手 朝倉さやさんの歌や山形大学花笠サークル四面楚歌による演舞が披露され、大いに盛り上がり、楽しい雰囲気の中で参加者の交流を深めることができました。

準備期間は1年半を超える長丁場でしたが、始まってしまえばあっとい

う間の3日間でした。

今回の参加者アンケートでも好意的な感想が多く寄せられ、職員一同、苦労が報われたとホッとしています。

特集 2

こころの医療センターフェスティバル

今年も11月21日にこころの医療センターフェスティバルが開催されました。

当日は患者さんの作品の展示や、日頃の活動の紹介、ディケアで作ったさつまいも汁の振る舞い、体力測定、健康チェックなど様々なブースが設置され、多くの来場者が訪れました。

午後の音楽ステージでは、オカリナサークルによる演奏や、昨年に引き続き、医師、看護師、心理士など多職種な病院スタッフ職員によるロックバンドステージもあり、盛りだくさんの内容でした。

玄関ホールでは、障がい者作業所の皆さんによる物品販売も行われ、一日中笑顔があふれるあたたかい病院祭になりました。



特集 2

認定看護師の活動



WRITING/
＼看護主査 /
渋谷のみ

児童思春期 精神看護

Certified nurse activity introduction

児童思春期精神看護を専門領域として活動しています。所属病棟での看護実践を中心とし、コンサルト依頼を

受け他病棟でのカンファレンス参加やスタッフ(アンガーマネジメントなど)を行っています。また、小中学校などで活動も行っています。

活動するうえで“子どものある一時期を一緒に過ごす(関わりを持つ)こと”の意味を意識しています。“今まで会ったことのない存在”として子ども

に寄り添い、一緒に泣いたり笑ったりできる経験は私自身の成長にもなっていると感じています。看護師の人間性も治療の材料です。個人、チームとして、より質の高い看護を提供できるよう、スタッフと一緒に頑張っていきたいと思います。